

今回実施した「熊本城・田原坂・阿蘇神社」の視察会は、明治百五十周年を踏まえて実施したものです。

多くの発見をした「歴史ロマン探検隊」

研修委員長 林 寛

私たちが住む故郷の歴史や文化をもっと知りたいとの思いから、一昨年、「歴史ロマン探検隊」をスタートした。地域の歴史とロマンを求めて歩くと実に楽しい。そこには未知の領域が多く残っている。遙かその昔、名もない旅人が歩いたのと同じ道をたどると多くの事を発見し、また地域の良さを再認識する事が出来る。近くにこんな史跡や貴重な物があると期待しながら新たな土地を求めて探検した。

今年には明治維新百五十年、また明治十年二月に勃発した西南戦争から百四十年にあたり、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映もはじまり、西郷隆盛や幕末および明治の英雄たちが、どのように生き戦ってきたのか、ドラマをよみ面白くまた楽しむためにも今回の探検隊は良い機会であった。悲惨な戦いがあった大分県南部の西南戦争の激戦地を探検し、その地には戦死者の墓碑や記念碑が多く

建てられ、今日まで大切に守られてきた。そこには地域の人たちから、いつも温かい花が供花されていた。またこの戦いで、地域の人たちは家や田畑を放置し、徴用され。雑役として遠くの中へ道案内をし、物資の運搬などに駆り出されるなど、大きな犠牲を強いられ、人々は塗炭の苦しみを味わってきた。

百四十年前、県境の山岳地帯が歴史の大きな舞台となり、熾烈な戦いがあったことを改めて強く感じた。貴重な文化財が失われる今日、歴史の潮目を知る人も少なくなつた。史実を後世に伝え残すためにも、私たちが少しでも役に立てればと思いをあらたにした。

一昨年から多くの地を訪ね、探検し多くのことを感じ、発見することができたことに感謝したい。歴史は私たちの長い暮らしの中から生まれ、今日まで大切に守り伝えられてきた貴重な財産である。人と人との触れ合いを大切にしながら、また新しい地を求め探検し新しい発見をしたい。

この西南戦跡めぐりについて、史談会会員 清松薫氏が「西南戦跡を巡って思う」と題し寄稿文を寄せています。ここに紹介します。